

相談支援係
072-941-3365

情報チーム
072-943-5785

研究研修係
072-943-5784

教育センター
Web pageは
こちらから



『そだちのねっこ』

～乳幼児期の遊びより～



【水、とんだね～！ ～偶然が遊びにつながる瞬間～】



8月1日（火）、1歳児の子どもたちが遊ぶ様子を見学してきました。

コップからコップに水を移し替えたり、泥の感触を全身で味わったり、穴から出てくる水を指で押さえたり離したり、それぞれの遊び方で水遊びを楽しんでいました。まだ文章にして話すことは難しい年齢ですが、表情や「わ！」「いっぱい」「きゃ！」などの言葉からその楽しさを感じていることが伝わってきました。



1歳児の様子

そんな中、A児が柔らかいチューブの入れ物に水を入れて持ち上げた瞬間に、ぴょ～！と噴水のように水が出ました。偶然の出来事に「わあ～！」とびっくりしながらも嬉しそうな表情を見せ、保育者と目を合わせている場面がありました。保育者は「わあ～！」と同じ言葉を発すると同時に、「天井についたね～」「上から水落ちてくるね～」「冷たいな～」など、子どもの体験したこと、感じたことを言葉で伝えて共感していました。すると、A児も「ついたね～」、隣に居たB児は「冷たいな～」と保育者の言葉を真似する姿がありました。A児が何度も繰り返し遊んでいると、周りにいた子どもたちも入れ物に水を入れて押したら、飛び出してくることを知り、お互いの顔を見て笑い合うことで、その楽しさを共有していました。



子どもの『もう一回！』という気持ちが起こることは、「遊びに対する興味・関心、意欲」とのつながりが深く、そこに至るまでには、そばで温かく見守り、一緒に驚き、笑ってくれる保育者の存在や安心して遊べる環境があってこそだと思います。

子どもたちの満面の笑みは、見ているこちらまで笑顔にさせてしまう、『魔法の笑顔』です。この笑顔を求めていたのだと実感する瞬間でもありました。

瞬間でもありました。

「こんなことできるんだよ！」「みてみて！」という子どもたちの心の発信や姿を私たち大人(保育者)は見逃さずに寄り添い、『心から楽しんでいる笑顔＝魔法の笑顔』につなげていくことも、1歳児の育ちのねっこであると再確認しました。



初任者研修⑬⑭野外活動研修



令和5年8月4日（金）午前9時～午後2時に、八尾市立大畑山青少年野外活動センター（アクトランドYAO）で初任者研修⑬⑭野外活動研修を行いました。講師は大畑山青少年野外活動センターの宮嶋啓太所長で研修テーマは①「野外活動時の諸注意について」、②「野外活動でのサイエンス教室」、③実技（飯盒炊さん）「野外活動時のカレーライスの作り方を学ぶ」、④「野外活動実践事例紹介」です。熱中症対策を講じながら研修を実施しました。

<受講者感想>

- 野外活動時は怪我や熱中症、体調不良に気をつけなければとは思っていたが、今回の研修を受けたことで、植物や生き物の中にも危険なものがあり、十分な知識が必要であるということを知った。特に、植物は見分けることが難しそうなので、事前に危険な動植物を確認しておくことが必要だ。安全に野外活動をするため、下見での確認を怠らないようにしていきたい。
- 夏には熱中症の対策として各自気を付けることはもちろんだが、グループで協力して周りの人が体調を崩していないか確認する方法は効果的だと感じました。野外活動は様々な危険が伴うので、イラストを使って危険を予測する方法も口頭で伝えるよりわかりやすく、子どもたちが考え主体的に取り組む活動になり得ると感じた。
- 体験学習は、話を聞くだけより学習内容が身につくと感じた。知っているのと体験するのでは違うということを実感した。私は理科の教員なので、授業でも説明だけではなく、できるだけ実物を見せ、実物に触れさせる工夫をしていきたい。
- クエン酸と重曹を混ぜると水の温度が下がることや、氷に塩を入れることで温度が下がることを知識としては知っていたが、実際にやってみてその冷たさを実感し、子どもたちが体調を崩した時などに活用できそうだと感じた。
- 今回研修を受けて野外活動は防災教育や探究活動、人間関係作りに効果的であることを実感した。非日常的な空間の中で、楽しみながら知識や技術を習得することができると感じた。学校生活においても様々な学習の導入に野外活動的な要素を活かして楽しく主体的に学習していけるように工夫していきたい。
- 屋内の研修で、生き物に関するゲームをして、隠れ場所・食物・水・住む場所の4つのことについても楽しく理解できました。学校行事などでもグループワークを取り入れて、自然について楽しく学べる機会を増やしていきたいと思う。



← 丸型飯盒でご飯を、鍋ではカレーをつくりました。着火は学びたてのファイヤースターターで行いました。

※ファイヤースターター

マグネシウムやその合金をとがった金属で擦った時に出る火花で着火する道具で、濡れても水分を拭き取ればすぐ使用できます。

通級指導教室担当者会⑤



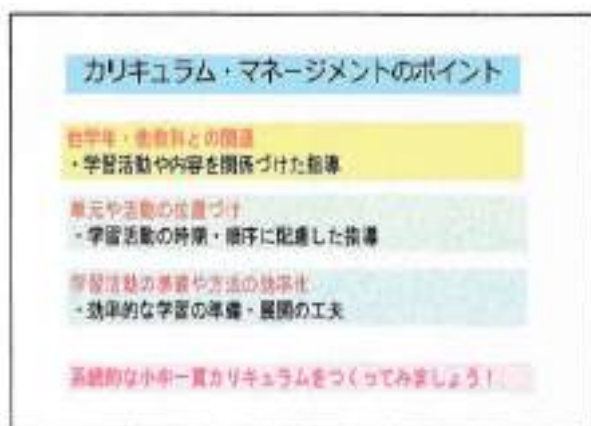
令和5年8月7日（月）午前9時30分～午前11時30分に、通級指導教室担当者会⑤を行いました。講師は一般社団法人発達支援ルーム「まなび」今村佐智子理事で、研修テーマは「ソーシャルスキルトレーニング」です。

← 研修に使用したスライドの一部

<受講者感想>

- ・ソーシャルスキルトレーニング（SST）について、理論から実践までたくさん教えていただき、勉強になった。ゲームやことばあつめもたくさん紹介いただき、やってみようと思う。ソーシャルスキルトレーニングは、成功体験を積み重ねていくことが大切で、そのためにフィードバックをしっかりとやっていかなければならないということも学んだ。
- ・まず目の前にいる子どもを肯定するところから入りたいと思っている自分の考えと重なるところが非常に多く、喜びを感じながら研修に参加することができた。そのため、もっと学びたいという気持ちが非常に高くなり、とても充実した研修だった。
- ・普段から「遊び」の重要性を感じている。子どもは幼児から「遊び」を通してソーシャルスキルトレーニング（SST）を学ぶものと考えている。今日の講義は、まさに私の信念と同じであり、大変勉強になった。2学期からの実践にわくわくしている。

「総合」授業づくり研修



令和5年8月7日（月）午前9時30分～午前11時30分に「総合」授業づくり研修を行いました。講師は関西福祉科学大学馬野範雄教授で、研修テーマは「小中連携を視野に入れたカリキュラム・マネジメント」です。

← 研修に使用したスライドの一部

<受講者感想>

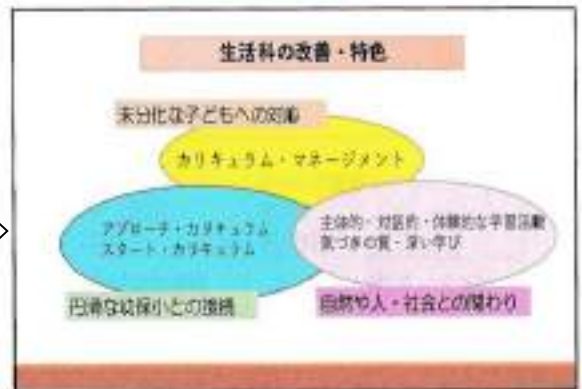
- ・系統立てることで子どもたちは、より成長できるということを実感した。今回の研修で、小学校内だけでなく、中学校まで視野に入れてカリキュラム・マネジメントすることの大切さを知り、今後は小中連携の機会に実施できるよう提案したい。また、他の学校の実践を知ることでもできたので、自分の学校でもできることはやってみたい。
- ・小学校の先生とグループワークで情報共有したことで、連携の大切さについて学んだ。今年度は、副担として、担当学年の授業に入っているが、自分が担任になったときに、よりよい総合の授業ができるように、今日の研修をいかしたい。
- ・小中9年間を見通したカリキュラムの設定の大切さを改めて感じた。実際にグループの先生方とカリキュラム作りをしてみて、やはり中学校区での連携はとても大事だと思った。また、体験学習を通して、実際に触れたり感じたりすることから、自分には何ができるのかを社会の一員として考える力を育成できるよう、さまざまな活動の設定が大切だと思った。こうし

た活動はさまざまな教科との連携で行っていくことも大切だと思う。

「生活」授業づくり研修

令和5年8月7日(月)午後2時～午後4時に「生活」授業づくり研修を行いました。講師は関西福祉科学大学馬野範雄教授で、研修テーマは「幼保小連携を視野に入れたカリキュラムづくり」です。

研修に使用したスライドの一部 ⇨



<受講者感想>

- ・こども園と小学校で同じような「活動」があっても、中身や軽重が違うことに気付いた。こども園での経験がとても小学校生活に生きていると感じているので、カリキュラムの作成はできるだけこども園での経験を元に作成できるようにしたい。
- ・生活科でつながる幼小連携という視点でのお話で、改めて学びの連続性の大切さを確認する研修となった。就学前施設での実践が小学校以降にどのようなようにつながるかの見通しをもって保育を組み立てていくことが必要だと感じた。
- ・日常生活を問題なく送れるようにする生活者を育てることが「生活科」の目標であるという話を伺い、こども園での教育も重要な責務があると改めて感じた。こども園では遊びを通じた環境教育だが、保育者が育てたい姿と子ども一人ひとりの興味関心をリンクさせながら教育計画やカリキュラムを立てていくことが大切だと思う。

「国語」授業づくり研修①

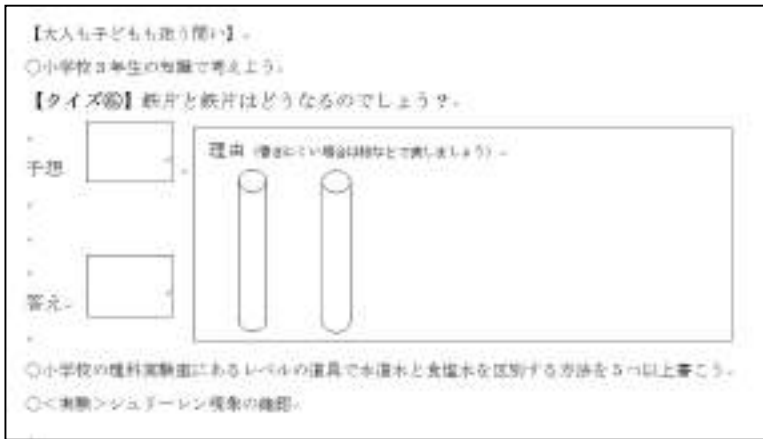
令和5年8月21日(月)午前9時30分～午前11時30分に「国語」授業づくり研修①を行いました。講師は大阪教育大学住田勝教授で、研修テーマは「書く力を育てる説明的文章の学習指導の開発：『下書き』として説明的文章テキストを読む」（主に小学校）です。実際の小学校の教科書に掲載されている教材（説明文など）をもとにご講義いただきました。

<受講者感想>

- ・完成されたものだと思っていた説明文を、ゆるませ、子どもたちに書き手として参加させるという発想が面白かった。これから説明文の教材研究するときに、実践してみるのが楽しみだ。
- ・説明文の指導は、内容理解になってしまいがちだが、「子どもが主体的に書く」「筆者になって書く」という視点が今回得られた。教師から作文や要約をさせるのではなく、学習のなかで子どもが自発的に取り組めるような指導ができたらと思った。
- ・筆者の立場にたって考えられるようにするために、説明文の中の余白を考えて、その部分を子どもたちに考えさせるのは、子どもたちも興味がわくし、意欲的に文章に向かうことができると思った。実際に授業を行う際に、説明文の余白をみつけ、子どもたちに考えさせることができるようにしたい。

「理科」授業づくり研修

令和5年8月21日(月)午後2時～午後4時に「理科」授業づくり研修を行いました。講師は大阪成蹊大学福岡亮治准教授で、研修テーマは「エデュテインメントで子どもたちが主体的に学ぶ楽しい理科実験」です。



← 研修に使用したスライドの一部
 ※エデュテイメント
 Education + Entertainment
 <受講者感想>
 ・児童観を大事にして、子どもたちが思考できる内容を考えることが大事だということが改めてわかった。楽しみながら学ばせたいと思っていたので、今回の研修はとても有意義でした。

- ・問いの力を感した。問い続けることで、学びの担保ができ、今後自分の授業でも生かしていきたいと思った。
- ・理科をいかに児童に使えるかを学ぶことができたと思う。普段の授業から「考える」「実験してみる」につなげると身に付きやすいことがよく分かった。今回の内容を生かして、早速授業で実践してみようと思う。

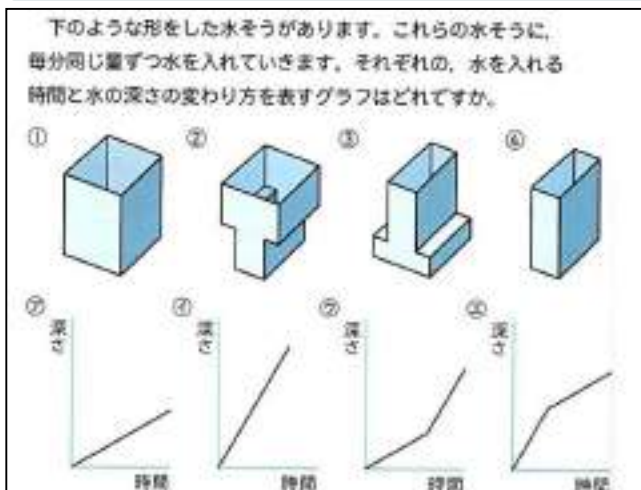
「国語」授業づくり研修②

令和5年8月22日（火）午前9時30分～午前11時30分に「国語」授業づくり研修②を行いました。講師は大阪教育大学住田勝教授で研修テーマは「書く力を育てる説明的文章の学習指導の開発：『下書き』として説明的文章テキストを読む」（主に小学校高学年・中学校）です。実際の小中学校の教科書に掲載されている教材（説明文など）をもとにご講義いただきました。

<受講者感想>

- ・高学年の説明文の指導について実際の教材を使っただけの内容だったのでイメージしやすかった。実際に筆者になったつもりで書いてみると、説明文の内容に沿ったものにするために内容をもう一度振り返ることにもつながるといことがわかった。
- ・普段から疑問に思っていたことを解消できた。今回の「書き手として子どもたちが本文を読み進める」という考え方に則って授業を進めていくと、今後子どもたちに「書く力」を効果的に自身につけさせることができると感じた。この考え方をもち続け教材分析に活かしていきたいと思う。
- ・小学校の説明文で今どのように指導しているのか具体的に学ぶことができて非常に参考になった。筆者の立場に立ちながら、思考を整理する方法を今日は教えていただけたので、二学期の授業から取り入れていこうと思う。

「算数」「数学」授業づくり研修①



令和5年8月22日（火）午後2時～午後4時に「算数」「数学」授業づくり研修①を行いました。講師は教育アドバイザーの川北章史さんと、研修テーマは「伝え合い高まる算数学習をめざして」（主に小学校）です。

← 研修で使用した資料の一部

<受講者感想>

- 算数の苦手な子は、ずっと苦手なイメージのまま高学年になっている子が多いと思うので、できる限り楽しいと思えるような時間が作りたい。
- 今回の研修でも、子どもたちの「分かる過程」が大切だと聞き、改めてその過程を楽しみながら学ばせたいと思った。二学期はぜひ実践してみたいです。
- 小学校でどこまで、どのように、どんな言葉で習っているかが知ることができてよかった。今までは、こどもたちに基礎的な計算能力だけだと思っていただけ部分もあったが、今回の研修を受講して、こどもたちにどれだけ定着しているかを知ることも含めて、どんどん記述・説明させる時間も充実させられたらと思った。

学級経営・指導力向上研修



令和5年8月23日(水)午前9時30分～正午に学級経営・指導力向上研修を行いました。講師は株式会社ダスキンお掃除教育研究所職員で、研修テーマは「学校掃除セミナー ～学校掃除の持つ教育的効果を考える～」です。

← 当日使用した
「学校掃除指導活動事例」より

<受講者感想>

- 個人的に掃除が好きなので、毎日の15分間掃除を集中して行ってほしいと考えてるが、どうしても、途中さぼったり、いい加減な活動で終わってしまったりする児童がいるので、何とかできないものかと研修に参加した。紹介していただいた教材等を学校の職員にも伝え、学校として統一した取り組みが行えればと思う。
- 掃除について詳しく学んだり考えたりしたことはなかったが、毎日の活動の中で協力し合える関係づくりになると考えている。積極的に清掃活動に取り組もうとする生徒も多く、またそれとは反対にふざけたり楽しそうしたりする生徒もいるなかで、どのように学級経営をしていけばよいのかを考えることもある。今日の研修資料なども参考に2学期から実施していこうと思う。
- 今回の研修で、具体的な汚れの取り方や、全体清掃の方法など、今後の学級活動で活かせることをたくさん学んだ。子どもたちにも、掃除の大切さや掃除から得られることを考えさせ、主体的に掃除に向き合わせながら、生きる力を身に付けさせていきたい。

講師のための基本研修②・転任教職員研修②

令和5年8月24日(木)午前10時～正午に講師のための基本研修②・転任教職員研修②を行いました。講師は人権教育課中井良太指導主事で研修テーマは「人権について考えるー地域に学ぶー八尾市における人権教育の現状と課題」です。

<受講者感想>

- 差別やいじめ事象が自分のクラスで起きた場合の対応、それが起きないようにクラス運営について考えることができた。特に被害者の側に立ちきるという言葉が印象に残ったし、大切にしていきたいと思う。
- グループで意見交流をし、指導の仕方、考え方を共有することができた。人権教育について八尾市の現状と取り組みを知ることができた。これからも人権について学んでいきたい。

- ・自分自身が正しい人権感覚を持ち、児童の差別的発言を見逃さないことも大事な人権教育だと感じた。
- ・事例を通して、自分のクラスだったら、学校だったらどんな対応になるだろうと、具体的にイメージしながら、人権について考えることができた。交流を通して、加害者側の背景も考えて、話を聞くことで、今後の生徒の行動も変わってくるのではないかと思う。

「算数」「数学」授業づくり研修②

令和5年8月24日（木）午後2時～午後4時に「算数」「数学」授業づくり研修②を行いました。講師は京都産業大学牛瀧文宏教授で、研修テーマは「算数・数学から見わたす小中一貫教育」（主に小学校高学年・中学校）です。

<受講者感想>

- ・数の概念について深く学ぶことができた。系統立てて指導することの大切さを改めて確認することができた。中学校の数学についても多くのことを知ることができ、今後の算数教育に生かしていきたいと思う。
- ・小中学校の算数・数学の教え方や考え方を知ることができてよかった。特に小中一貫の考え方は、なるほどと思えた。また、授業横断的な考え方についても自分なりの考えを持つことができた。
- ・中学校ではあまり使わなくなる帯分数を小学校で教えるのはなぜか、について班別で話し合い、興味深かった。小中高の切れ目を意識することで、今後の指導が効果的に行えるように思う。

教育センター「情報公開コーナー」

教育センターB棟（東側）の2階に「情報公開コーナー」があります。各種教育関係図書・雑誌等を配架しています。もちろん「教科書センター」として八尾市で採択している教科書や他社の教科書もあります。研修等で来所された時に直接ご覧いただければ幸いです。教科書・その他書籍・雑誌等も2週間の貸し出しを行っております。今回は8月から9月に配架した雑誌の誌名と目次の一部を紹介いたします。

「指導と評価」（日本教育評価研究会）9月号

- ・特集1 英語教育の現状と課題
- ・特集2 わが校の授業研究・中学校

「道徳教育」（明治図書）9月号

- ・最新キーワードまで網羅 道徳教育の新常識

「道徳教育」（明治図書）9月号 ・最新キーワードまで網羅 道徳教育の新常識
 この中で23のキーワードについて道徳教育との関わりについて述べられています。「新常識」というぐらいですから、それぞれに最新の知見が述べられています。その中で、私なりに目についたものを紹介させていただきます。

- ・教育データの利活用（P.38）

『フィルターバブル現象』（自分の好む情報「だけ」に囲まれ多様な意見から隔離されやすくなる現象）

『エコーチェンバー現象』（同じような意見が、閉ざされた空間の中で反響して大きくなっていく現象）

何をもって「教育データ」とするかについては明確な定義はないそうですが、データを取り扱う中で上記の現象が生じるというのはありがちなことのように思えます。仮説は大切ですが、それに沿った情報（「だけ」）を集めていると、真実を見誤る可能性が大きいように思います。特に道徳の授業では多面的多角的なものの見方ができる柔軟さが必要で、早くから特定の情報に依存して凝り固まってしまうのは危ういです。むしろ常に他者の考え方を批判的に吟味し、納得いくものは自分の考えに取り入れていくぐらいでなくてはなりません。道徳科の授業で（反響し合って大きくなった）「みんなの意見」に押されて「少数の意見」が圧殺されてしまうようなことはないようにしたいものです。

・平和学習（P.46）

道徳の内容項目に「平和」そのものはありませんが、著者は教育基本法前文を援用し、内容項目の「C 国際理解、国際親善」が隣接するのではないかということと、中学校ではこの項目に「・・・世界の平和と人類の発展に寄与すること」が明記されていることから、特別の教科 道徳における「平和学習」の必要性を述べられています。著者は令和4年2月のウクライナへのロシア侵攻以前に出された令和2年版（小学校）、令和3年版（中学校）の道徳の教科書にこのことを教材としたものがない旨述べられています。進行中の国際紛争を教材化するのは難しいような気がします。現行の道徳科の教科書でも『六千人の命のピザ』（東京書籍：中学2年）や『その子の世界、私の世界』『そのこ』『命見つめて』（東京書籍：中学3年）などは「国際理解、国際貢献」の教材とされていますが、十分「平和学習」としても使える教材です。（葎

「こころの科学」（日本評論社）9月号

- ・特別企画 からだの不調と暮らしのケア

「月刊学校教育相談」（ほんの森出版）9月号

- ・特集1 子どもが主体的に動き出す瞬間
- ・特集2 子ども間のトラブルが、保護者間のトラブルに発展したとき

「特別支援教育研究」（全日本特別支援教育研究連盟編集・東洋館出版社）9月号

- ・特集 「各教科等を合わせた指導」における「個別最適な学び」と「協働的な学び」

「初等教育資料」（文部科学省教育課程課・幼児教育課編集・東洋館出版社）9月号

- ・特集Ⅰ 資質・能力の育成に向けた授業づくり2
一思考力、判断力、表現力等の指導と評価を軸に②一
- ・特集Ⅱ [算数]子供たちの身の回りの問題を題材とした算数指導の実際

「中等教育資料」（文部科学省教育課程課編集・学事出版）9月号

- ・特集 情報活用能力を育成する指導の充実

教育科学「国語教育」（明治図書）9月号

- ・第1特集 永久保存版！ どの子も「書ける」全指導
- ・第2特集 令和5年度全国学力学習状況調査の見方・活かし方

教育科学「社会科教育」（明治図書）9月号

- ・特集 一度習ったら忘れない！目からウロコの歴史人物学習